

発見! おごおり遺産

No.12 神社境内の石造物

前回までは、恵比須さん、猿田彦、梵字石などテーマを絞って紹介してきましたが、今回は神社の境内などに見られる石造物を広く紹介します。



御勢大靈石神社の鳥居



松崎上町の水盤



隼鷹神社の狛犬

神

社や寺の境内には、多くの石造物があります。みなさんがいつも何気なく見ている石の造形も、実は

さまざまな意味を持っているのです。

市内の神社で多く見られる石造物には、鳥居、狛犬、灯籠、手水石(水盤)などがあります。これらは氏子によって奉獻されたものが多く、地域の人々によって大切に守られてきました。

私たちが神社を参詣するとき、まず目にするのが鳥居です。鳥居は神社の内と外を分ける境に立ち、木や石で造られます。市内に残る最古の鳥居は、御勢大靈石神社入口にある石造のもので、正徳5年(1715年)の銘があります。300年以上に渡って、旧街道を行き交う人々を見守ってきました。

邪気を払う狛犬は「獅子」を表すとも、「高麗」から渡来した犬とも言われます。通常一対になっていて、一方が口を開き、一方が口を閉じる「阿吽」の形態をとります。元は木製で門やお堂の中に置かれていましたが、その後屋外に置かれるようになり、風雨に強い石製に変わりました。市内の神社には60体以上あり、江戸時代後期の19世紀以

降に多く造られました。横隈隼鷹神社には、天保4年(1833年)の狛犬があります。

灯籠は灯明を安置するための用具で、元は寺院で使用されていました。神仏習合で神社にも広がり、現在は神社の境内や庭園で多く見ることが出来ます。電灯がない時代は実際に火を灯し、道標の役割を果たしていました。市内には多くの灯籠がありますが、小郡祇園神社には明暦3年(1657年)のものがあります。

わたしたちは神社を参詣する際、うがい手水で身を清め、新しい気持ちになってお参りします。そのため、手水石(水盤)は各寺社に設けられ、300年以上の歴史を持つものもあります。

松崎上町のお堂前にある水盤は元禄10年(1697年)のもので、ハート形の珍しい形をしています。

その他、日吉神社には神使である猿が、天満宮には天神の使者である牛が奉獻されています。これら石造物の歴史をたどると、当時の地域の様子が見えてきます。

問合せ先 文化財課 ☎ 75・7555

おごおり遺産とは?》》近年の市内調査で「再発見」した文化遺産=市民のたからのこと